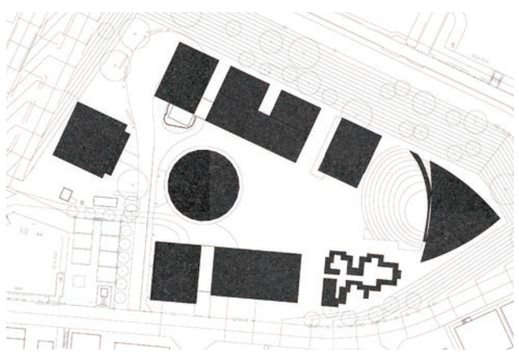
The Ground

レンタル畑とレストラン

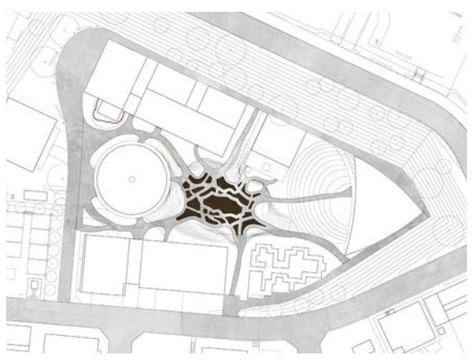
1. 舞台は大学内の滞在棟群_____敷地 - 既存建築

配置図　1:2000

本提案の舞台は、宿泊できる施設がたちならぶ大学内の滞在棟群である。約9000 ㎡の敷地内には個性豊かな 4 棟の宿泊施設とアトリエ、パビリオン、ドーム型教育施設が、地 (Ground) に対する図 (Figure) として存在する。敷地周辺には舗装された遊歩道があるものの、敷地中央には土の中庭がひろがっており、滞在棟同士のアクセスは芳しくない。個々の建築が毅然としてその地に根を張っている。ここでは、地 (Ground) としての建築をこの地に提案する。従来のたちならび方である A+B+C+... のような方法に対して、敷地 - 既存建築という方法をとることで、環境や先行形態の機微に影響された多様な空間が生まれる。触手のように伸びる腕は、各棟のデッキを繋ぎ、さらに敷地を囲む遊歩道や敷地外の舗装道路にまで手を伸ばす。個性的な滞在棟ごとのアクセスを確立し、この教育施設を地域にもひらいた存在にすることを目指す。

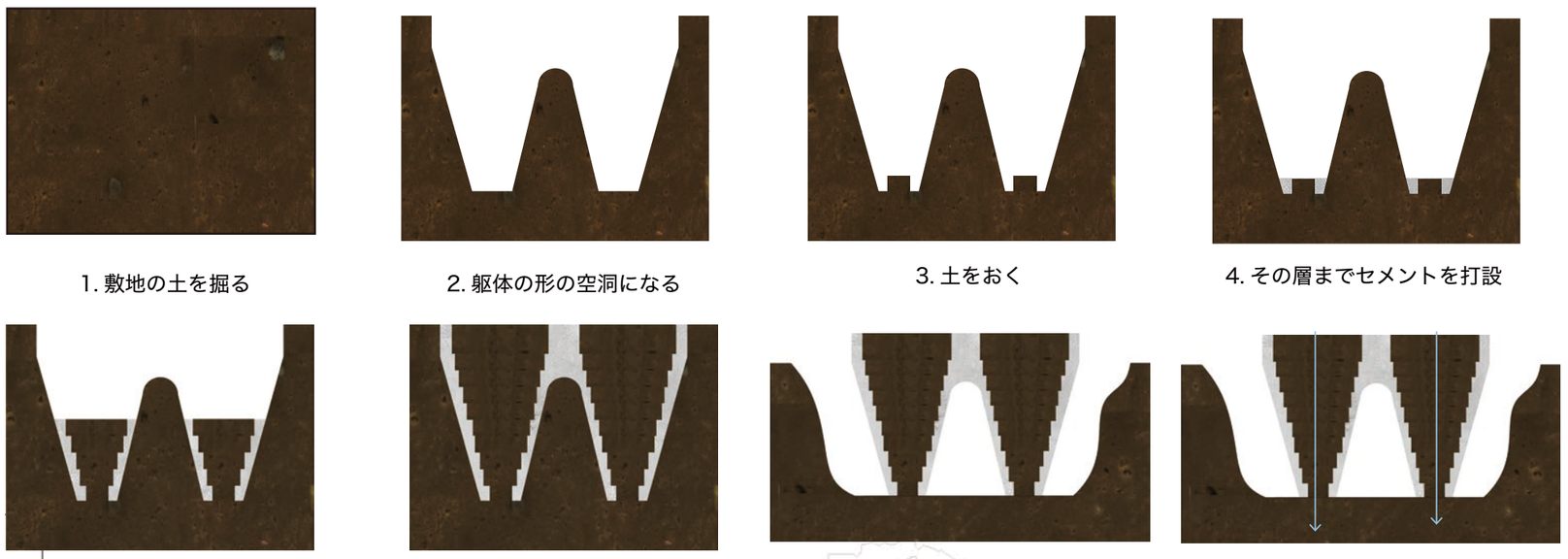


現在のたちならび [A+B+C...]
個性豊かな滞在棟群が図として存在している



本提案 [敷地 -(既存建築 A+B+C...)]
地の部分を汲み取った The Ground が各滞在棟を繋ぐ

2. 地を活かした工法_____分割打設

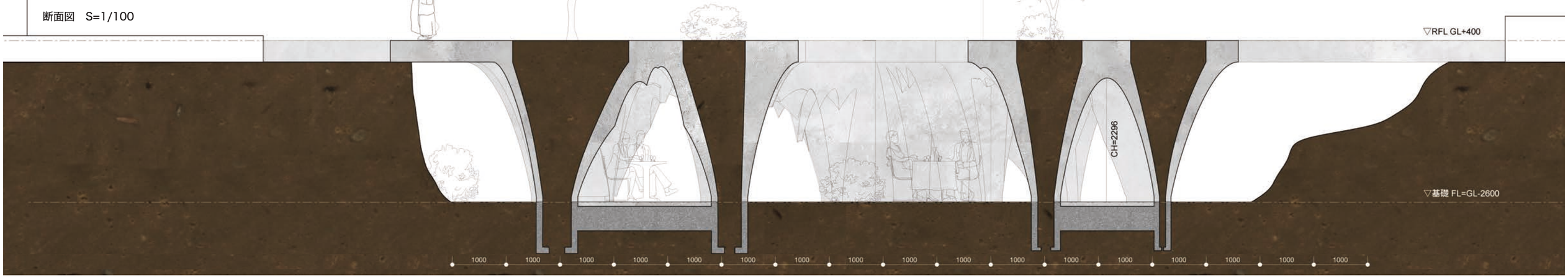


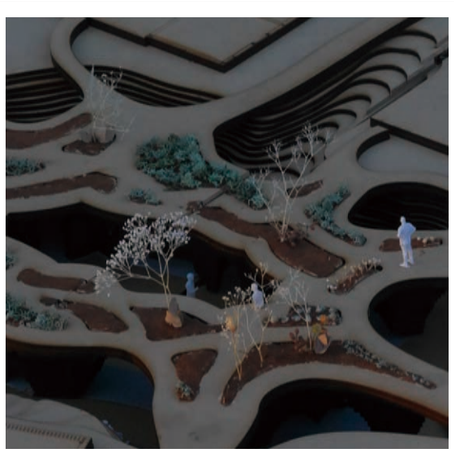
1. 敷地の土を掘る
2. 躯体の形の空洞になる
3. 土をおく
4. その層までセメントを打設
5. うちまししていく
6. さらにうちまししていく
7. 躯体を掘り出す

雨などは大地に流れる

施工模型　S=1/40

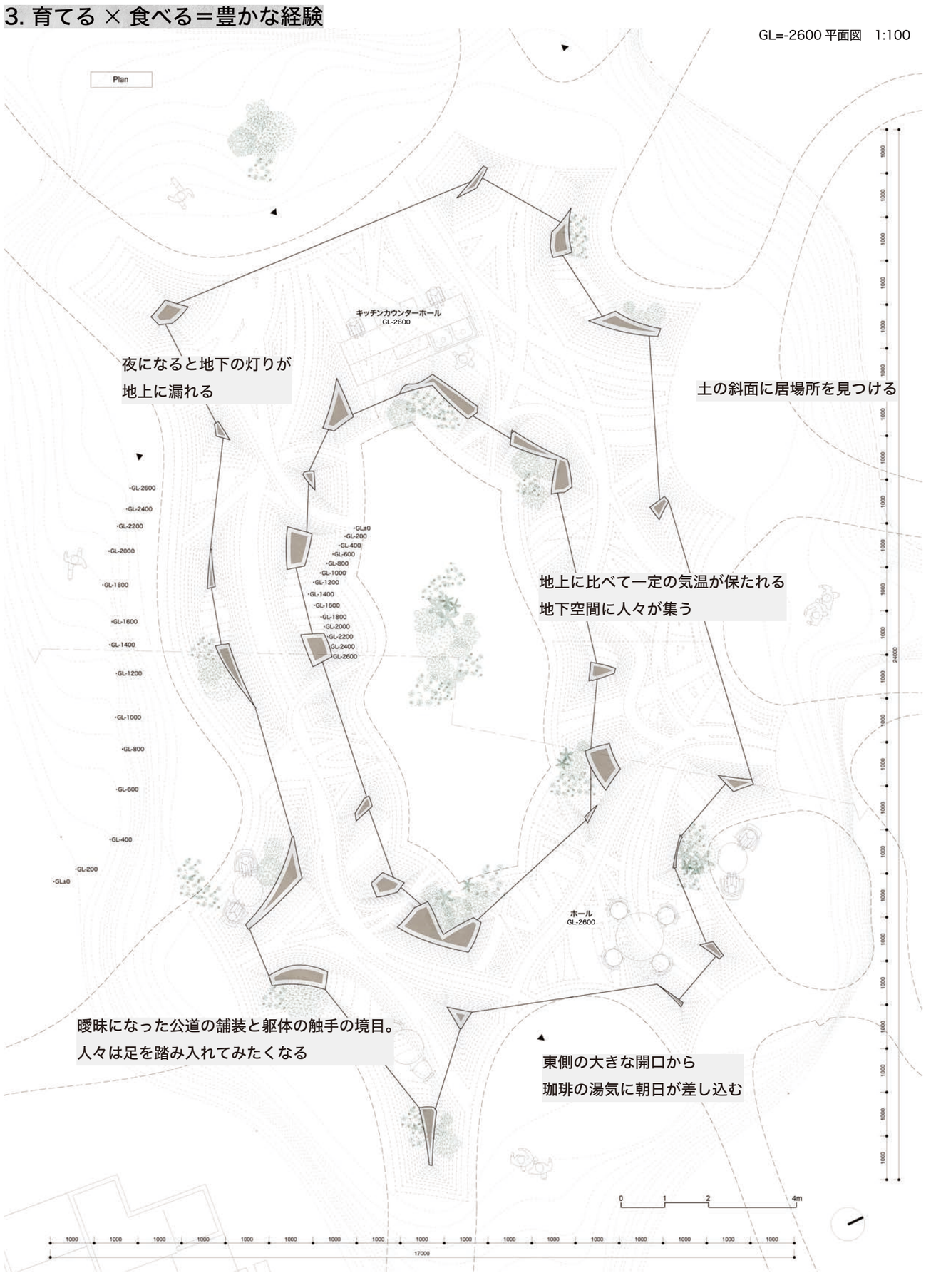
断面図　S=1/100



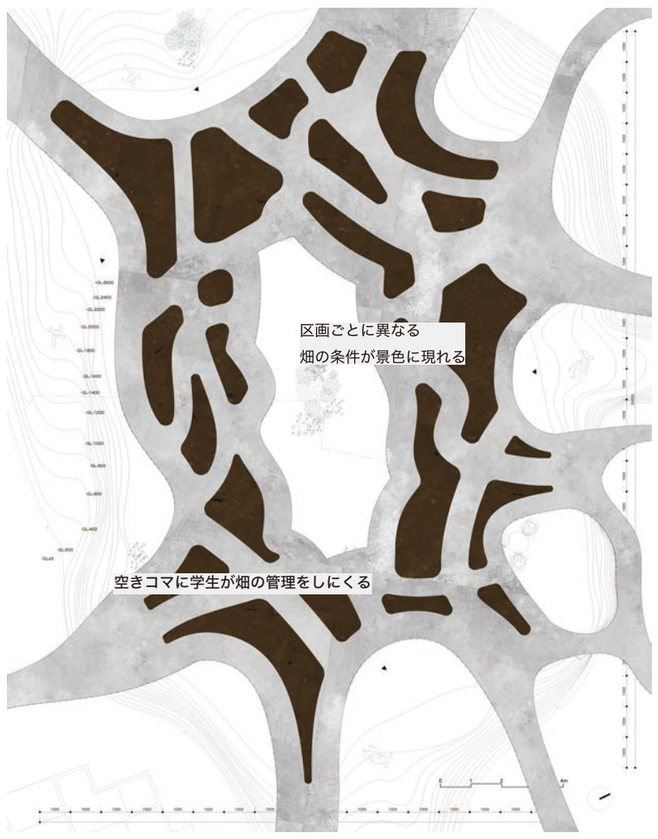


3. 育てる × 食べる＝豊かな経験

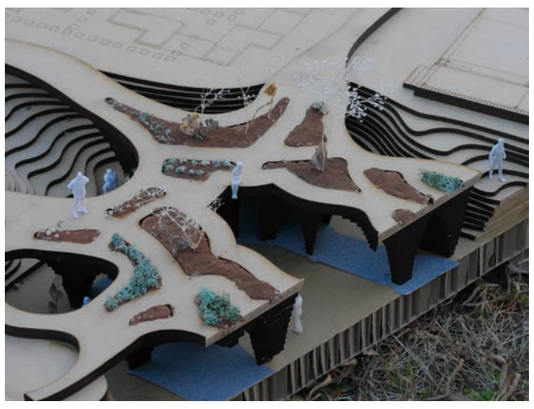
GL=-2600 平面図　1:100

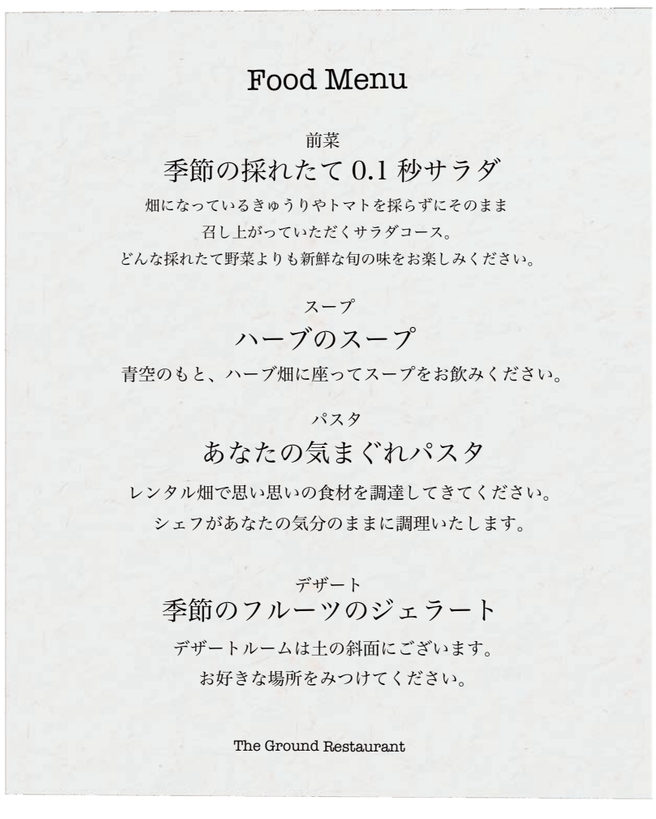


屋根伏せ図　S=/200



躯体の屋根に並ぶそれぞれの畑は、学生や地域の住人によって管理される。工法７における内部空間の掘り出し作業は有志の学生や地域の住人と共同で行い、その作業報酬としてレンタル畑の借用権を付与する。各自が自分の畑を作り、管理し、それらを地下のレストランで振る舞うことができる。躯体が大学と地域を物理的に繋ぐだけではなく、継続的に人々がこの場所に通い、大学が地域に開かれていくことを期待することができる。畑とレストランがかけ合わさったこの施設では、畑を育て、自分で育てた畑で作物を育て、そしてそれを食べることから得られる新たな豊かさを提供する。





Food Menu

前菜
季節の採れたて 0.1 秒サラダ
畑になっているきゅうりやトマトを採らずにそのまま
召し上がっていただくサラダコース。
どんな採れたて野菜よりも新鮮な旬の味をお楽しみください。

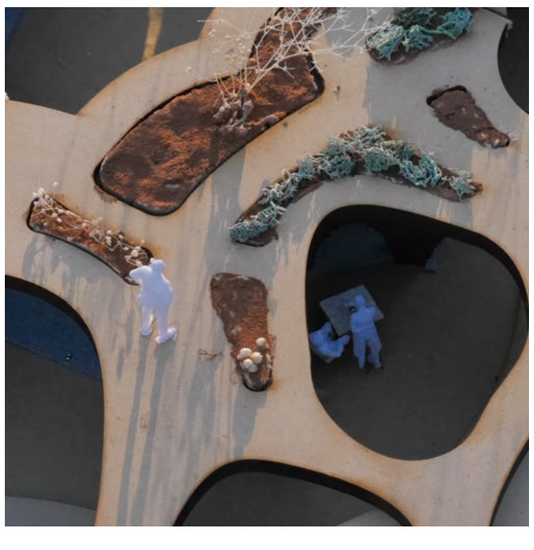
スープ
ハーブのスープ
青空のもと、ハーブ畑に座ってスープをお飲みください。

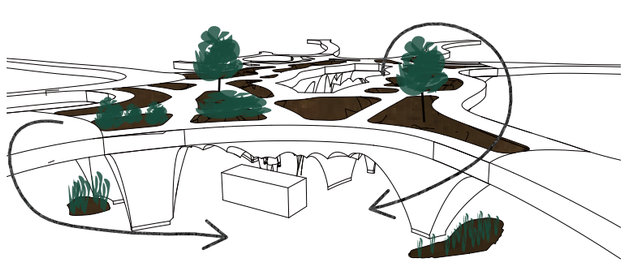
パスタ
あなたの気まぐれパスタ
レンタル畑で思い思いの食材を調達してきてください。
シェフがあなたの気分のままに調理いたします。

デザート
季節のフルーツのジェラート
デザートルームは土の斜面にございます。
お好きな場所をみつけてください。

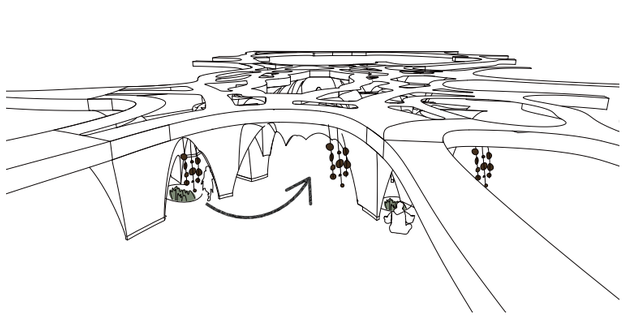
The Ground Restaurant

高級レストランとは違う「豊かさ」を提供するこのレストランでは、独特のメニューを展開することができる。人々は、レストランの食材も土から生えてくる植物であったことを思い出す。なっている野菜をそのまま食べてみたいという子供の頃の好奇心を取り戻す。土に座って空を見上げ、流れゆく雲に心を馳せる。このレンタル畑とレストランには来るたびに違う出会いや気づきがあるだろう。

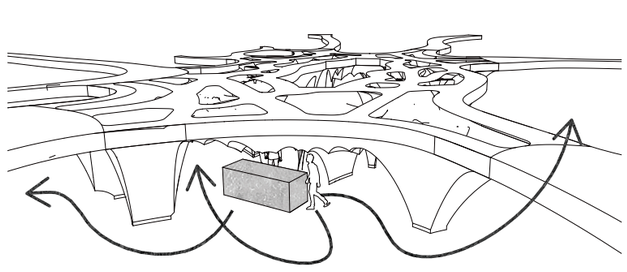




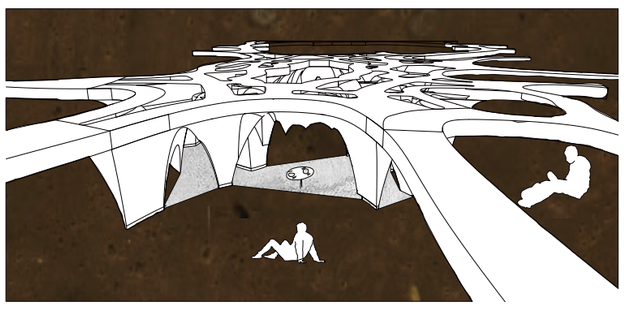
育てる



貯蔵する

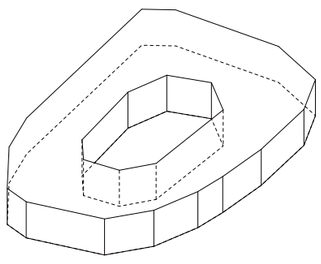


調理する

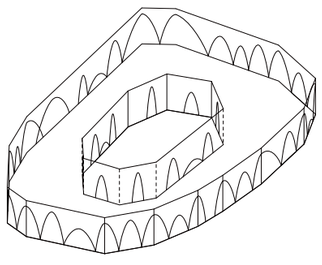


食べる

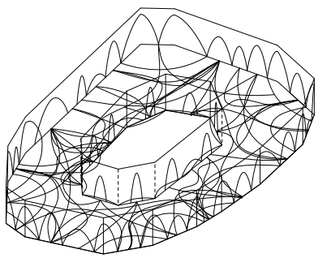
4. 躯体の成形ルール_____ヴォールトを足し合わせることで現れる全体像



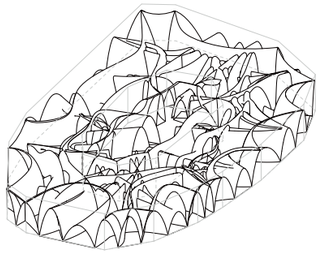
1. 敷地の形状に合わせて任意の多角形を描き、立ち上げる



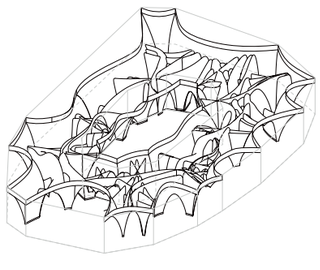
2. 敷地内の動線を考慮しつつ多角柱の側面上にアーチを置く



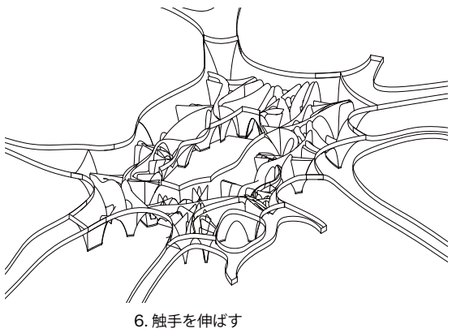
3. アーチとアーチを繋ぐ曲線を描く



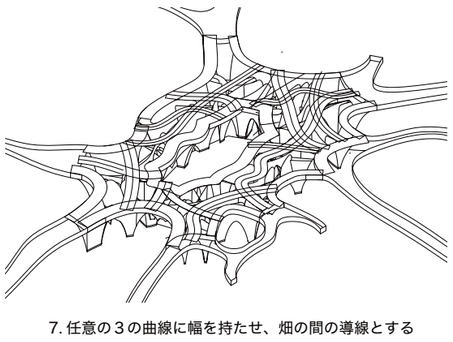
4. アーチを３の曲線に沿ってスイープすることでヴォールトを作る



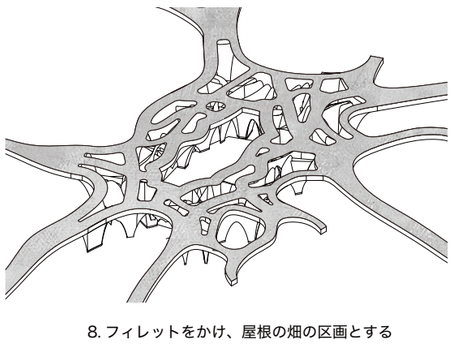
5.1 の多角柱から４のヴォールト群を取り除く



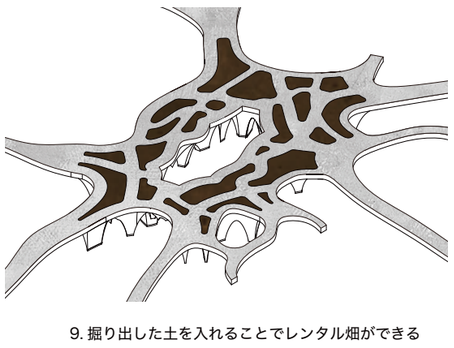
6. 触手を伸ばす



7. 任意の３の曲線に幅を持たせ、畑の間の導線とする

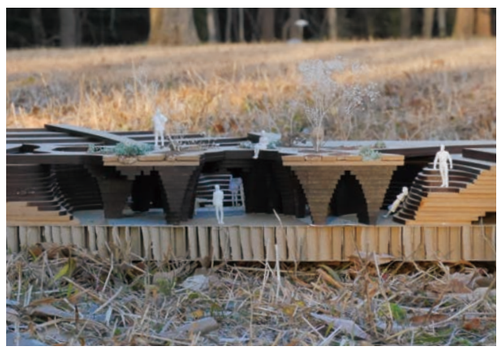


8. フィレットをかけ、屋根の畑の区画とする



9. 掘り出した土を入れることでレンタル畑ができる

今回の工法を取るにあたり躯体の形状における制限は、上から下にかけて窄まる形であることのみである。この極めて自由度の高い形状を、敷地に合わせて設計するにあたり、左のようなルールを用いた。
まず、手順１にて多角柱を置くことで、大まかな面積や環境との関係性を調節することができる。次にアーチを描く過程で、敷地に必要であろう地下導線の確保をすることができる。この地下導線となるヴォールトを足し合わせることで、内部空間がうまれている。このような決定ルールを用いることで、必要な導線を網羅しつつ多様な空間を生み出すことができる。



左：西を見る
右：東を見る

１の多角柱の高さと２のアーチの高さの差によって生じる立ち上げ部分は、周辺の滞在棟のデッキの高さを考慮して決定している。レンタル畑の土を受けることはもちろん、滞在棟同士を結ぶ地上のアプローチを提供する役割を担っている。さらにこのかたちの決定ルールは、手順７のように屋根のレンタル畑区画の規定も行う。これらを同時に解くことで、畑の直下には必ず柱が落ちている、すなわち躯体上の土と大地とを繋がっている状態を可能にしている。